

越生・鳩山新校準備委員会（第3回） 議事録

- 1 日 時 令和6年1月12日（金） 午後1時30分開会
午後3時終了
- 2 会 場 県立越生高等学校白梅館
- 3 出席委員 依田委員長、吉澤副委員長、堀副委員長、松浦委員、伊東委員、
長島委員、佐々木委員、高橋委員、白石委員、武藤委員、廣川委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協 議 「越生・鳩山新校（仮称）基本計画（案）」について
依田委員長 それでは次第2、協議に入ります。まず、協議に当たって事務局から資料の概要について説明をお願いします。
事務局 （資料の概要について説明）
依田委員長 資料の概要について説明がありました。ここまで、よろしいでしょうか。
はい。それでは、【資料1】越生・鳩山新校（仮称）基本計画（案）について、事務局から説明をお願いします。
事務局 （越生・鳩山新校（仮称）基本計画（案）について説明）
依田委員長 事務局から、全体を通して説明がありましたが、まず、全体を通して委員の皆様からお話を伺いたいと思います。基本計画（案）につきまして、骨子（案）の修正部分を含めて、いかがでしょうか。はい。高橋委員、お願いします。
高橋委員 学科の名称についてですが、前回は美術・デザイン科ということで、個人的には美術科のままでも良いのではないかとこの場でお話しさせていただきましたが、前回の美術・デザイン科よりも今回の美術表現科の方が良いかなと個人的には思っています。今までと違う学科名というところと、美術というのは、いろいろ表現の範囲が広いと思いますので、美術表現科というのは、いろいろなところと結びつくのかなと思ひまして、個人的には良い名前なのではないかと感じました。
依田委員長 ありがとうございます。今、高橋委員から、アニメーション・美術に関する学科の学科名について御意見をいただきましたが、学科名について、他の委員の皆様、いかがでしょうか。はい。武藤委員、お願いします。
武藤委員 私が美術表現科という案を見た第一印象として、芸術だなという感じがしました。芸術を勉強しに行くのかなと感じたので、方向性がそれで合っているのかなのかなかと思ひました。
依田委員長 ありがとうございます。伊東委員、学科名については今までもいろいろと御意見をいただいていたのですが、いかがでしょうか。

伊東委員 美術表現科ということで、全国の高校の美術系を専門にしている学科、コースを調べても、美術表現科という学科自体は恐らくないと思います。ですので、美術・デザイン科や美術科、芸術・デザイン科などいろいろありますが、その中でも他にないというところでは、目新しいということになるかと思います。ただ、美術表現という言葉自体は、単語と言いますか、それとしても使われている言葉でもあるので、できれば、コース分けというところも含めて、例えば、美術表現科のデザインコースなのかあるいは美術コースなのか。あと、それこそ、美術表現の中には、アニメーションという視覚表現や映像表現の分野も入ってきますので、大学ですと、美術表現分野、視覚表現分野、映像表現分野、空間表現分野といった分野分けにも使われるものです。ですので、美術表現科という学科名と合わせて、コースのところをしっかりと明記していくことで、中学生に分かりやすく、ここを選ぼうと思っている人たちに、こういうことが学べるんだということがわかりやすく伝わるようになれば、なお良いのかなと思いました。

依田委員長 はい。今の御意見について、事務局の考えを聞きたいと思います。いかがでしょうか。

事務局 はい。ありがとうございます。聞いた感じは芸術というイメージがあるとか、新規性が感じられて良いとか、前向きな御意見をいただいて本当に助かっております。また、伊東委員からは、具体的な学びの中身をということで、コースという言い方になるのか今までどおり専攻という言い方になるのか分かりませんが、何かしらそういったところを、言ってみれば今の越生高校の美術科も四つの分野、専攻があります。コースと言っても良いかもしれません。そういったところにうまく乗せていく、そこでの言い方として、映像表現や視覚表現、アニメーションに係る特徴的な術語などを使いながら、うまく中学生にアピールしていければ良いと考えております。建設的な御意見をいただいて本当に感謝しております。

依田委員長 はい。今の事務局からの説明について、伊東委員、いかがでしょうか。

伊東委員 分かりました。よろしく申し上げます。

依田委員長 はい。では、学科名以外の他の部分のところにつきましても、皆様から引き続き御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。はい。白石委員、お願いします。

白石委員 5ページの10 付随する事項(1)跡地の利活用について、鳩山高校の跡地については鳩山町と協議しながら利活用を検討するとありますが、場所だけでなく、今まで鳩山高校が鳩山町と連携して行ってきたイベントや行事がたくさんあります。その辺をまるっきりなくしてしまうと、鳩山高校が完全になくなってしまいうというのが、やはり鳩山側の人間としてはあります。校舎などは越生高校のものが残るので、鳩山高校が何かしらの形で残っていかないと、不平等なのではないかというのが、正直な気持ちです。今、夏祭りなどでも、軽音楽部や吹奏楽部が参加しているので、新校でも、鳩山町の方にも参加していただきたいという気持ちがあります。あと、生徒会の生徒たちが頑張ってくれているハトミライ☆プロジェクトは御存じでしょうか。それも、鳩山高校がなくなってしまうが故に、後輩に桜の手入れ

を任せられなくなってしまったということで、今後はどうしようかと先輩たちが模索してくれています。その辺も知っていただきたいと思います。県の方でどうこうしてくれというわけではなく、今、生徒会の生徒たちがすごくがんばってくれているということをお知らせしておきたいと思います。

依田委員長 はい。では、堀副委員長、お願いします。

堀副委員長 付随してお話しさせていただきます。今、白石委員からもありましたように、本校は開校当時から、鳩山町をはじめとして地域の方々に支えられて教育活動を行ってきております。特に生徒会なども町の行事に参加させていただいたり、町とともにいろいろなことをやって実績を上げているということがあります。私も校長として、新校としても是非、それを引き継いでいただきたいと思っております。もちろん、鳩山町だけというよりも、もっと地域を広げて、鳩山町、越生町といったように広い地域を対象として、例えば、新校が設置される越生町だけでなく、鳩山町も含めた形でやっていければ良いと思います。更に、そういった行事等だけでなく、基本計画（案）の中の基本理念の中にも、地域との協働的な学びを通して主体性を養い云々とありますし、教育活動等の基本方針や具現化の中にも、地域連携という言葉がたくさん出てきております。ですから、そういったことを踏まえて、例えば学習面でも、総合的な探究の時間等で、これは越生町もそうだと思いますが、鳩山町では少子高齢化が一番の課題になっていると町長も話しています。是非、高校生の立場で、行政と一緒に、総合的な探究の時間等で、この問題をどう捉えていくかということに勉強する。そして、例えば施策等でも、高校生はこんなことをやりたいと思っていると町に提案などをしていければ、イベント+学習面でも、地域連携ということが生きてくるのではないかと思います。是非、鳩山町を含めた広域的な形で地域連携を今後も進めていただければと思います。

依田委員長 はい。それでは、事務局からお願いします。

事務局 白石委員がおっしゃったことについては、事務局としても本当に大事なことでずっと考えております。前回、第2回の準備委員会の中でも、高校の場合の地域というのはどういう考え方なのかという御質問をいただいたりしております。先ほど、堀副委員長からもお話があったように、所在する町もちろんそうですが、それから、ステークホルダーとよく言われますが、小学校や中学校のように学区が決まっているわけではないので、関わりのある人たちが広域に及ぶ場合もあります。そういったいろいろな方、多くの皆さんとつながっていくということはとても大事だと考えています。そういう意味では、新校を設置するのは越生高校の場所になりますが、その広がり、これまで鳩山高校が地域と共に歩んできた歴史を含むものだと考えています。今ここで、ハトミライ☆プロジェクトの桜の木を、といった具体の話はできないかもしれませんが、例えば、東日本大震災以降、福島を植えるというとても良い取組もされてきているわけですから、そういったものを引き継ぐ可能性も十分にあると思っております。また、越生町とのつながりも、是非、町の関係者の皆様には、学校を良い形で巻き込んでいただいて、良い地域貢献、あるいはお互いに連携ができると良いのかなと思っております。新校のコンセプトを書い

ていく中で、一つ一つは読み上げませんが、地域とつながっていく、町との関係を大事にするということが書きこまれています。それが私たちの新校に対する思いでもありますので、何度も申し上げておりますが、二つの学校が一つになるという中で、決して鳩山の皆さんが鳩山高校だけで閉じていくのではなく、新しい学校に鳩山高校の思い、いろいろな取組が乗っかっていくんだ、つながっていくんだということを、私たちは常に意識しながら、学校づくりを進めてまいりたいと考えております。

依田委員長 白石委員、いかがでしょうか。

白石委員 はい。よろしく申し上げます。

依田委員長 よろしいでしょうか。はい。それでは、引き続き、各委員から御意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。はい。伊東委員、申し上げます。

伊東委員 7 開校準備(1)施設・設備の整備というところですが、地域とのつながりというお話もありましたが、これまでの会議でも出てきていた、普通科においてどういうふうに特色を付けていくのかということもあるかと思っております。その観点でいくと、学校におけるデジタル対応した整備、施設や設備、また、生徒に対してパソコンを持たせるかどうかという部分についても、これはお金がかかることですから、その方針については、これ以降ということになるかと思っておりますが、ここも踏まえていただければと思っております。近年、様々な学校で、学校名が変わり、新しい体制になりというところで、例えば、生徒一人一人に Chromebook を持たせている、iPad などのタブレットではなく、きちんとノートパソコンを持たせて授業に参加させるといったときに、やはり学校内のネットワーク、回線速度も含めて、そういう部分の強化をしましたということをやっている学校もあります。ですので、学校というのは、長年の校舎もありますが、そこに付随して、ICT教育等を行うのであれば、それが満足にできる環境、生徒にデバイス等を持たせても、結局、ネットワークが遅いとか、パソコンのスペックが足りないからなかなか作業が追い付かないとか、そういうことも結構出てきますので、やはりデジタルになって大事なことは、もちろん、生徒個々の意欲も大事ですが、そこをきちんと、機器、ソフトとハードが補ってあげないと効果を発揮しないので、その辺りも含めて、開校準備の施設・設備の整備というところを考えていただけると良いかと思っております。生徒一人一人にノートパソコンを持たせるというのも、新しい取組の一つになると思っておりますし、そういうところから、生徒一人一人がいろいろな情報を発信していけるようになると、先ほどおっしゃっていた、両方の町でのいろいろな取組についても生徒自身が発信できるようになり、それに紐づいてリテラシーの教育等もしていければ、生徒たちが自分で何を考えて、どういうふう地域を発信していこうかというところの教育にもなってくるかと思っております。そういう生徒たちのやる気が出たときに、ソフトやハード側が障害にならないように、環境整備をお願いしたいと思っております。

依田委員長 はい。今の伊東委員からのお話ですが、まず、ICTの教育環境ということについて、どういうふう考えているのか、事務局の方から考え方を教えていただければと思っております。

事務局 大切な御指摘をいただいていると思っております。この準備委員会では、D X人材やI C T人材の話が出てきておりますが、そういった人材を育成するには、I T周りのインフラ整備が欠かせないと考えております。そういう中にあっては、数年間あったコロナの時代に、学校現場は急速にI C T化が進みました。これは、私たちも予想だにしないくらいのスピードで進んでいます。その当時、ネットワークを光ファイバーに切り替えたり、義務教育のところでは端末を一人一台取り入れ、高校についても、個人負担ではありますが、一人一台端末ということで動き始めています。ですので、ある程度インフラは整ってきてはおりますが、ただ、伊東委員が御指摘されるように、例えば、高速のデータ通信に対応できていなかったりという状況があります。高速というのは、例えば1,000人くらいの生徒たちが一斉に動画を視聴するとなったとき、あるいはストリーミング再生するといったときに、ネットワークが滞るといことが実際に起きていたということがあります。なお、埼玉県においては、I T関係のインフラ整備を再構築する動きがあると聞いております。ただ、毎年予算を立てて事業を行っているという中で、予算を確実に取れるというところがないままに約束ができないので、予算の獲得に努めます、がんばりますということが書かれているだけで、具体のところがないのが少し物足りなく感じられるのかと思います。学校現場の中でのI C T化は急速に進んでいますし、その中でも今回、アニメーションをはじめとする芸術の作品を作っていく作業の中で必要となるデバイスの整備等は、当然、やっていかなければならないと考えております。また、校舎の老朽化にも対応しなければならぬでしょうし、お金が限られた中で、どういうふうにやりくりしていくかというところを、このような記載で、付随する事項の中に書かせていただいているということで御理解いただければと思います。

依田委員長 一人一台端末は進めている、かつ、I Tインフラの再構築についても今後進めていく方向でいるという理解でよろしいですかね。はい。それでは、伊東委員から普通科の魅力づくりについてもあったかと思えます。前回は、他の委員の皆様から様々なお話があったところですが、普通科の魅力をどうしていくのかという点について、事務局から説明いただいでよろしいでしょうか。

事務局 今回の修正案の中に、典型的にという文言を追記しておりますが、これは、普通科の特色化を進めていくための一つの手法として、こういったことが考えられるということで、新校を設置する越生高校の現状の教育課程を踏まえたときに、そうしたことを進めていくのは良いのではないかとということで、今回の案に載せさせていただきました。類型化というと、学校関係者の方はなんとなくそういうことかと分かっていただけるかもしれませんが、なかなか馴染まない言葉かと思えますので、改めて御説明いたします。生徒がこの進路に進みたいと思ったときに、ではどんな科目を選択すると一番良いのか、これはなかなか難しい問題です。義務教育では学ぶ科目がみんな決まっています、中学校になるといくつか選択科目があるのかもしれませんが、基本は全て共通して学びます。高校の場合には、生徒によっては、いわゆる文系理系というやり方があるように、理数系は苦手なので文系の科目をた

くさん取るとか、逆にそちらの分野が苦手なので理数系をやりたいとか、生徒の特性や興味関心に合わせて科目が分かれていることがあります。これを、生徒に自由に選ばせるやり方もありますが、あらかじめ学校側が、例えば、この類型を選んでもらうと大学進学に有利になりますとか、この類型を選んでもらうと公務員試験に対応できる科目が用意されていますとか、特定の職業、例えば保育士を目指す生徒はこの類型が良いですとか、そういったことで、将来の進路選択と科目選択をセットにして、学校側が生徒たちに示すことができます。こういったことが、いわゆる類型化によって教育課程を編成するということです。進路のガイダンスとカリキュラムのガイダンスを一体化していくということになります。これをやると、あの類型に入るとこういう進路が待っているといったように目的がはっきりしてきますので、出口のところが分かりやすくなります。こういった取組は、他の学校でも複数あるわけですが、新校もそういった方向で教育課程を見直していったら良いのではないかとということで、これまで、多様な科目を設定しと書いてあったところに、典型的にという語句を追記して、普通科の中でも、大学進学を考える、公務員試験に対応できるようにするなど、特化した学びをプログラム化していくことを考えていってはどうか、そして、出口のところを売りとして中学生に訴えていくということをやってはどうかということが、案の中に含まれているところです。ただ、教育課程そのものは、来年度に学校の方で、教職員が中心になって検討していきますので、今、具体のところまではなかなか申し上げられないですが、類型化による特色化を図っていくということで、その中に、先ほど伊東委員からもありましたが、デジタル的なところがうまく環境的に支えていけるようになっていくと、学びの幅が広がってくるのかなと思っています。今や、ネットを使えば海外の大学の授業を聴講して単位を取れるなど、そういったことも出てきている時代ですので、可能性はいろいろ広がってくると思います。そういったことを考えております。

依田委員長 はい。事務局の方から、普通科について説明がありましたが、類型化という余り聞き慣れない言葉もありましたが、委員の皆様、いかがでしょうか。御質問等がございますか。はい。長島委員、お願いします。

長島委員 今の説明を聞いて、非常に普通科に期待を持ちました。地元の一人として、温かく見守っていきこうと思うのですが、令和8年度に新校が開校するわけですが、その中でも重要な一つとして校名があります。校名というのは、検討委員会なのか準備委員会なのかあるいは教育委員会なのか、今後どこでどういうふうに決められていく方針なのかをお聞きしたいと思います。ここに上がってきた時点で決定だと言われても困りますので、その辺をお聞かせいただければと思います。

依田委員長 はい。それでは、校名について、手続き的な部分でしょうか、説明をお願いします。

事務局 校名につきましては、この準備委員会を来年度もまた開催させていただき、検討と言いますか御意見を頂戴したいと考えております。その御意見を頂戴する前提として今、予定しているのは、県民の皆様幅広く公募をする、どんな校名が良いのかアイデアを募集するということです。これは第1期のときもそうでしたが、ア

アイデアを募集します。アイデアを募って、具体的名前も挙がってくるわけですが、その中から、こういうのが良いよねということ、この準備委員会で皆様から御意見を出していただいて、いくつかの案に絞り込んだものを、教育委員会あるいは埼玉県の方で、最終的には条例を変えることによって学校の名前は決まりますので、埼玉県学校設置条例という条例を改正することで、新しい学校の校名が決まります。それを、アイデアを県民から募って、ある程度絞り込むという作業を、委員の皆様をお願いしようと思っております。ですから、最終的には設置者である埼玉県が決めさせていただく部分もありますが、ただ、全く一方的に埼玉県が決めるのではなく、県民の皆様からアイデアを募集し、そして準備委員の皆様から意見を頂戴し、ある程度の方向性を決めていきたいと考えております。時期的に言いますと、意見を頂戴するのが来年度ですので、令和6年度の終わり、暦で言いますと令和7年の2月、3月か、もしくはもう少し先、令和7年の5月、6月くらいかもしれません。とにかくその辺で議会に上程し、最終的には条例として可決成立しますと、新しい校名が令和8年4月1日からスタートすることになりますので、これをもって、こちらに設置される学校の名前が正式に切り替わるということになります。

長島委員 そうすると、準備委員会あるいは検討委員会に出てきた候補というのは、県民の公募によって出てきた案を集約したものということで良いでしょうか。個人的には、まだ先の話ですが、越生という名前はない方が良いと思っています。越生〇〇高校というのは、外していただいた方が良くかと。せっかく鳩山高校と一緒に新校になるのであれば、違った名前を付けていただければ、候補の中に上がってきて皆さんで検討していただければ良いのではないかと個人的には思います。ましてや普通科は3クラスになり典型的にやろうということなので、いろいろな分野で期待ができるので、できれば名前を一新していただけたら有り難いと思います。個人的な見解です。

依田委員長 はい。また、再度お伺いする機会がありますので、その際にゆくりとまたお話を賜りたいと思います。事務局から、県民から広く意見を募集して、こちらの準備委員会で委員の皆様から意見をいただくという説明がありましたが、募集したアイデアの中から校名を決定するということですか。

事務局 第1期についてはそうでした。結果的にはそうになりました。準備委員会は意見を頂戴する場なので、県民からこんなアイデアが出ていますが、皆様、どうお感じになりますか、あるいはどんなものがこの学校に相応しいでしょうかという御意見を頂戴する中で、絞り込んでいくという作業をしておりますので、基本的にこちらの委員の中からその場で何か出してもらおうというよりは、出てきたものを広げて皆さんで絞っていくと言いますか、アイデアを皆さんで練っていくことになるかと思っております。この委員の皆さんも県民の皆さんですから、アイデアを出していただいて構わないと思っておりますし、結果的に委員会の中で、もしかするとこんなのはいかがでしょうかというものが出てくるかもしれません。第1期のときも、委員会の中でこんなのはどうでしょうかと委員から出た案を検討の俎上に載せたことはありました。

依田委員長 確認ですが、募集したアイデアの中から選ぶということが決まっているわけではなく、あくまでアイデアを募集して、そのアイデアを踏まえて、こちらの委員の方からの意見も踏まえて、校名については県で検討するということでしょうか。

事務局 そうです。最後は絞られたアイデアの中から、県の方で決めさせていただきますが、その準備段階をこちらでやっていただき、その考え方等も、私どもから教育委員会の方に伝えさせていただきたいと思います。

依田委員長 そういうことですね。委員の皆様、お分かりになりましたでしょうか。これについては来年度、再度説明をさせていただいた上で、会議の方を開かせていただきたいと思います。

事務局 長島委員からお話が出ましたので念のため申し上げますと、検討委員会というお話がありましたが、検討委員会については、この基本計画を作るための委員会ですので、今年度末で解散してなくなってしまいます。準備委員の皆さんは、基本計画に対して御意見を頂戴するのと、校名について御意見を頂戴するという二つの役割があるので、来年度はこの準備委員会だけが動いていくという形になります。学校の方は、教育課程を考えたり、様々な細かい決め事を決めていく実務を担当する新校開設委員会という組織が別にできます。そういった流れになります。

依田委員長 はい。よろしいでしょうか。それでは、他、いかがでしょうか。はい。白石委員、お願いします。

白石委員 県民に校名のアイデアを募るということですが、どうやって知らせるのでしょうか。

事務局 まず手法としては、ネットを通じたり、あるいは実際に紙で書いていただいて提出してもらうということも、1期ときにはやっています。そういったいろいろな手法があると思います。そのことをアナウンスするのは、県の方からお知らせするというやり方で、例えば、新聞に折り込まれる県の広報誌「彩の国だより」に載せたり、埼玉県はSNSでいろいろな情報発信をしていますので、それらを活用したりすることも考えられるかと思います。また、第1期ときにはコロナ前でデジタル化が進む前だったということもあり、紙を実際に学校に配布し、子供たちからも校名のアイデアをもらおうということもありました。その辺りのやり方も含めて、皆さんから御意見を頂戴して、実際にこういうやり方でやりたいと思います、皆さん、御意見をくださいということを経てアイデア募集をやらせていただきたいと思っておりますので、またそのときに是非、御知恵をいただければと思います。

依田委員長 はい。他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、本日まで御発言をいただけていない委員からいただければと思いますが、松浦委員、何かございますか。

松浦委員 いろいろと御説明いただき、ありがとうございました。やはり以前から申し上げているところで、普通科の特色というところを私もすごく気にしているところがございます、その中で、基本方針の中に類型化という言葉を入れて、具現化の中にもそれに対応する記載をされておりますが、やはりこれを、実際に高校を選

ぶ子供たちや保護者にどのように分かりやすく伝えていくかということが大きなポイントになるだろうと感じました。今、お話しされていたところだけですと、同じような学校は探せば他にも出てくるのかなということで、越生高校と鳩山高校が一つになったところで、ここできれないこと、具体的にどういうことかを申し上げられないのですが、そういったことが子供たちや保護者に分かりやすく伝わるということが大事になってくるのだと感じました。また、今まででも新校がいろいろなところで立ち上がっていて、卒業生を送り出した中で、期待を抱いて進学したけれども、結局、もともとあった学校と何ら変わらなかったという言葉をよく聞いていた気がします。新校になって3年もすると、3年経ったけれどもやはり以前の学校と変わらなかったというところに落ち着いてほしくないという思いがあるので、まだもう少し時間があると思いますが、ここを是非、美術表現科については、恐らくいろいろな特色があり夢や希望を抱いて入学してくる子たちがたくさんいると思いますが、普通科の子たちにも同じような気持ちで入学できるようなところを、また一緒に考えられればと思います。

依田委員長 はい。今の御発言について、事務局からいかがですか。

事務局 中学生やその保護者にどう伝えていくかというのは、本当にポイントになってくるかと思えますし、これは我々の言葉になるのですが、新校効果という言い方があります。新校ができると、世間が注目してくださって、最初の数年間は生徒がたくさん集まったり、本当にがんばる子たちががんばってくれたりということがありますが、何年か経ってだんだんそれが停滞してくるということがないように、しっかりと準備を進めて、これは来年度の新校開設委員会での取組にかかってくることもかもしれませんが、是非、良いものをつくっていく、そのために教育局の方でも最大の支援をしていきたいと思っております。教育課程の編成等については、今の越生高校、新校を設置する学校が中心となって、いろいろな考え方を持ちながら進めていくことになると思いますので、私たちとしても、今の越生高校の校長をはじめ、教職員には良い教育課程を作ってほしいということでお話をさせていただいております。学校の方でも、様々なプロジェクトチームであったり、新しい学校の教育課程をどうするかという議論が進んでいるようですので、そうしたところをしっかりと進めていけるよう、支援をしていきたいと思っております。もし学校の検討状況などが御説明できるようなのであれば、吉澤副委員長からお願いできますか。

吉澤副委員長 本日、12月15日現在の中学生等卒業予定者の進路希望状況調査が新聞等で公表されているかと思えます。本校の普通科は0.81倍で、昨年同時期ですと0.49倍ですので、昨年度から比べると大幅に上がっています。美術科については1.00倍ということで、丁度定員に達しているような状況でございます。そういうところから鑑みても、美術科については、18年連続で全国高文祭にも出展しており、更に令和8年度からはアニメーションも加わってまいりますので、今以上に魅力づくりはできていくのかなと考えていますが、やはり普通科の方が、鳩山高校が募集停止になっている状態にも関わらず、まだ定員の確保が厳しい、今は2クラス募集でこの状況です。これが新校では3クラスになるということで、更に40人多

く、本校に足を向けてもらわないといけないといったところで、普通科の方の魅力を、この2年間でどうやって地域の中学生や保護者に落とし込んでいけるのかといったところが大きな課題だと考えています。学校としても、本校着任3年程度の若手の教員を集めて、プロジェクトチームを作りまして、12月に2回ほど検討いたしました。新校づくりにおいてどうやって普通科の魅力が高められるのか、特にこちらから何も示さずに自由な発想で、フリートークのような形で始めましたが、やはり若い教員ですので、なかなか着眼点が我々と違って、座学ばかりではなく実学を入れたら良いのではないかと、いわゆるソーシャルスキルトレーニングをカリキュラムの中に落とし込めないかなど、そういった話の中で、現行の教育課程だとなかなか出口が見えづらいといった意見もあり、やはり入口と出口が結びつきやすい、中学生がイメージしやすいものを示すことができれば、より本校を知ってもらえるのではないかという意見もありました。もともと私自身も、新校のお話をいただいたときから、普通科の魅力を高めることの方を、アニメーション云々よりも重きを置いて考えてきたという経緯がございます。まだこれは私案の段階ではありますが、これまでの委員会でも、地域の方から、これからの新校に求められることとして、もっと大学進学要素を増やしてもらえないかといったお話を頂戴しております。また、情報管理科のノウハウを生かしたIT人材の育成といった要素を新校の中に取り入れられないかといったお話も承っております。本校は独自で少人数制や丁寧な学習形態をずっと培ってきたという部分もありますので、それらも合わせつつ、何か作れないのかと考えるところです。大学へ進学できるコース、また、これからAI社会でなくなる職業もあるかと思っておりますので、AIに奪われにくい職業でかつ地域に根差した職業は何かと考えますと、例えば保育士や介護士、看護師であったり、地域には消防本部等もありますが、かなり高齢化が進んでいるというお話もありますので、いわゆる地域の公務員に進んでいけるようなコースなど、いくつか学校の方で、本校に入ってきてこういうコース選択をすると3年後にはこういう力が身に付いて、こういう仕事に結びついていけるんだよとか、こういうところに進学していけるんだよといった類型を示すことが、魅力を高めることにも結びついていけるのかなと考えております。併せて、総合的な探究の時間、本校ではこれを9限目の教室と称して、地域の方々、昨日もときがわ町の木工、木の職人さんに来ていただいて、木のストラップを2年生の生徒全員が作りました。それを今度、ときがわ町のコンビニエンスストアで販売して、売り上げた収益を、能登半島地震の寄付金として寄付しようというプロジェクトを行っております。今、本当に地域の方々に、本校の講師として学校に来ていただいて、普段、教員が教えられないようなことを教えていただくという取組を昨年度から始めて今年で2年目です。是非、ここに先ほど出た鳩山町のハトミライ☆プロジェクトなどいろいろ取り組んできているものもあると思っておりますので、そういった中に加えていければと思っておりますし、伊東委員からIT関係のお話がありましたが、本校は一人一台端末ということで、普通科はChromebook、美術科はiPadを全員購入し、校内ではBYODということで、そういった端末も活用しながら、今はNPO法人のカタリバとも連携し、他県の高

校生と共通の課題を勉強して、それをお互いに発表し合うといった取組も行っております。そういった学校行事等も含めて、いろいろな事柄を類型に加えながら、魅力ある普通科又は美術科づくりを行っていきたいと考えておりますので、具体的なことは4月以降、新校開設委員会等で決めていくことになると思いますが、是非、準備委員の皆様からいろいろな御意見をいただくことによって、我々も考えるということが進んでいくと思いますので、是非よろしく願いいたします。

依田委員長 松浦委員、いかがでしょうか。

松浦委員 ありがとうございます。よろしく願いします。

依田委員長 それでは、佐々木委員、何かございますか。

佐々木委員 典型的にというのが、最初は意味が分からなかったのですが、説明していただいてよく分かりました。高校を決めるときに、ある程度、この学校のこの類型を選ぶとこういう進路が歩めるんだということが分かった方が決めやすいと思うので、良いと思います。

依田委員長 ありがとうございます。それでは、全体を通して、皆様からいかがでしょうか。はい。長島委員、お願いします。

長島委員 先ほど、越生高校の校長先生がお話しなさったようなこと、普通科において典型的な指導をするということなので、非常に私も期待しております。昔は、進路を決めるときに、何しろ県立だと。大学行くのも国公立が良いんだと。ですが、20~30年前から私立が台頭してきて、すっかり進路については逆転してしまった気がしますので、是非、その辺も力を入れていただいて、校名はまだ分かりませんが、新校が越生町にとって、随分優秀な生徒が来たなど、結構大学にも進学しているなどといったような実績を残していただければ、地元民としては非常に有り難いと思いますので、よろしく願いします。

依田委員長 長島委員、これは激励として受け止めさせていただければと思います。はい。他、いかがでしょうか。では、廣川委員、お願いします。

廣川委員 魅力ある高校づくり課長の廣川でございます。本日は、いろいろな御意見をいただき、ありがとうございます。委員という立場で会議に参加させていただいております。皆様から大変貴重な御意見をいただいたと思っております。改めて新校づくり、がんばっていきたいと思っております。お話を聞いていて、私のもともとの新校に対する思いというのが、是非、表現力を高めるような生徒、しっかり自分の考えを持って、それを対外的にしっかり発表できるような生徒を育てていけるような学校になると良いなと思っております。それを、例えば地域との連携、デジタルの活用、あるいはアニメーション・美術に関する学びの中でそういった力を育てていければと思っております。地域との連携ということになりますと、当然、学校側だけではできない部分があります。相手方の理解を得ながら進めていければと思いますので、引き続き、皆様の御協力、御指導をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

依田委員長 はい。それでは、副委員長から一言いただきたいと思っております。

堀副委員長 皆様、ありがとうございました。校舎を閉じる学校の校長として、一言、

お話しさせていただきたいと思います。鳩山高校は、当時の首長をはじめ、地域の方々の大きな期待を受け、歴代のPTA会長、後援会長、同窓会長など多くの人たちに支えられ、地域に愛されてここまでやってきました。校舎を閉じることに、校長として非常に残念な思いはありますが、鳩山高校の歴史は新校に引き継がれていきます。吉澤副委員長もお話しされましたように、いろいろな教育活動が本校と共通する部分もあると思います。とにかく、生徒一人一人を大事にして大切にしていって教育ということ、両校とも行われていると思いますし、それは是非、新校に引き継いでいただきたいと思いますし、具体的な教育活動、地域連携等も、是非とも引き継いでいただきたいと思っております。そして、閉じるまでまだ後2年間あります。鳩山高校の生徒を預かる身として、最後まで生徒に、鳩山高校に来て良かった、卒業して良かったという思いをさせてあげたいというのが、正直な気持ちです。鳩山高校の生徒に対して、後2年間、責任を持って教育をしていきたいと思っております。3回の委員会で、皆様から本当にいろいろな御意見をいただきました。本当にありがとうございました。県とともにしっかりと受け止めて、これから新しい学校づくりに邁進してまいりたいと思いますので、今後とも、よろしく願いいたします。

吉澤副委員長 先ほども少しお話しさせていただきましたが、本当に、準備委員の皆様には、お忙しい中、3回にわたり、数々の貴重な御意見を頂戴することができました。誠にありがとうございました。本日をもって基本計画についての準備委員会での協議を終えて、教育委員会において正式なものが策定されていく運びになると説明がありましたので、いよいよそちらを、4月以降の開設委員会で具体的なものにしていかないといけないということで、本校のみならず、今、堀副委員長からもお話がありました、鳩山高校の方も引き継いでということで、非常に責任の重さと言いますか、いよいよ迫ってきたという重圧を感じているところでございます。ただ、常々、私から本校の教職員にも話をしていますが、新たな学校をつくっていく機会、一生に一回しかない貴重な機会なんだから、大変だ大変だと思ってやると良いアイデアは出てこないから、とにかく楽しくやろうよと。ああいうこともできるのではないかとかこういうこともやってみようよとか、そういった楽しい気持ちで新しい学校をつくっていこうよということを教職員に話しながら、進めているところでございます。鳩山も含めた地域、私自身も鳩山高校には、教員として6年間勤務させていただきましましたので、非常に愛着も持っておりますし、数は少なくなりましたが、当時一緒に机を並べて働いていた教員がまだ何人か鳩山高校に勤務しているということもありますので、そういった教職員の思いや顔を思い浮かべながら、丁寧に進めていければと考えております。先ほどお話しいただいたように、新校効果というところで、変わったばかりのころは多分人気も一時的には上がると思うのですが、それが短期間でまた元に戻ってしまうということにだけはならないように、20年、30年先まで、地域とともに成長していけるような、そういう高校づくりを目指して、一生懸命頑張っていきたいと考えております。事務局の皆さんには、ここまで、本当に親身になっていろいろ御助言いただきながらこま

で進めていただきまして、本当にありがとうございました。そういったことを受け継いで、新たな学校を立ち上げる校長として、責任を持って進めていきたいと考えておりますので、基本計画について御意見をいただく準備委員会の方は今日で閉じるかもしれませんが、また4月以降も、皆様方にはいろいろな場面で御指導をいただきながら、進めていければと思います。今後とも、是非、よろしくお願いいたします。

依田委員長 はい。ありがとうございました。それでは、これをもちまして、第3回の協議を終了させていただきたいと思います。本日御協議いただきました基本計画（案）ですが、冒頭で申し上げましたとおり、この後、事務局で整理をさせていただきまして、教育委員会で策定、公表ということで進めてまいりたいと考えております。なお、鳩山町につきましては、本日までのところ、御出席をいただけておりません。本日の協議の内容につきましては、また、町の方にお知らせさせていただくとともに、引き続き、来年度に向けて会議への御出席をお願いしてまいりたいと考えておりますので、御理解いただければと思います。また、先ほども少し申し上げましたが、来年度は校名について皆様から御意見をいただきたいと考えております。大変御多忙のところ、御面倒かと存じますが、引き続き、新校の開設準備に御協力を賜りたいと思っております。それでは、3回を通じて大変お世話になりました。ありがとうございました。以上で協議の方を終了させていただきます。